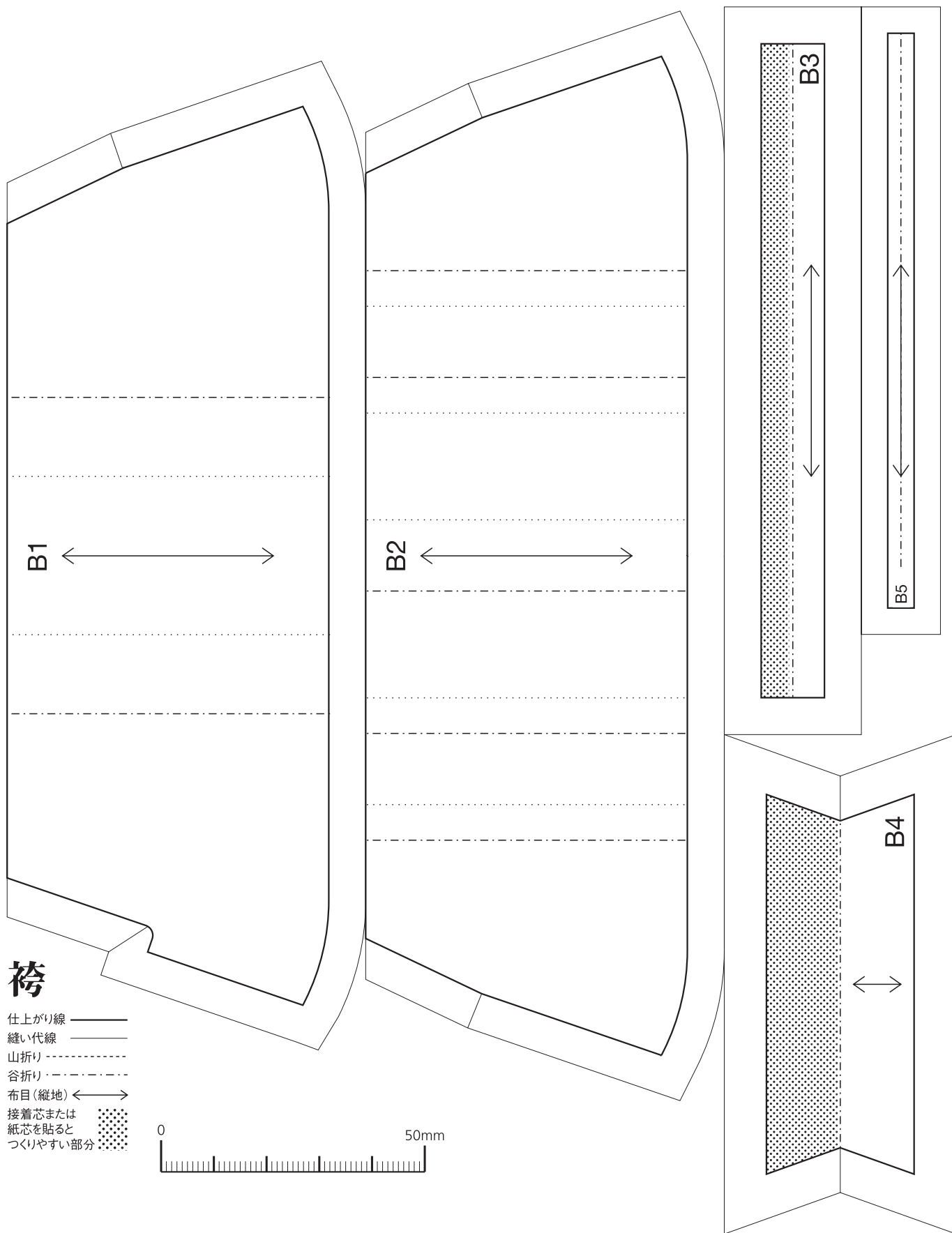
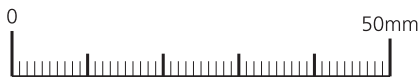


この型紙を切り取り、布の裏に印をつけて、つくります。



袴

- 仕上がり線 ———
- 縫い代線 - - - - -
- 山折り ·····
- 谷折り - · - · -
- 布目(縦地) <— — — — —>
- 接着芯または紙芯を貼ると
- つくりやすい部分 [stippled box]

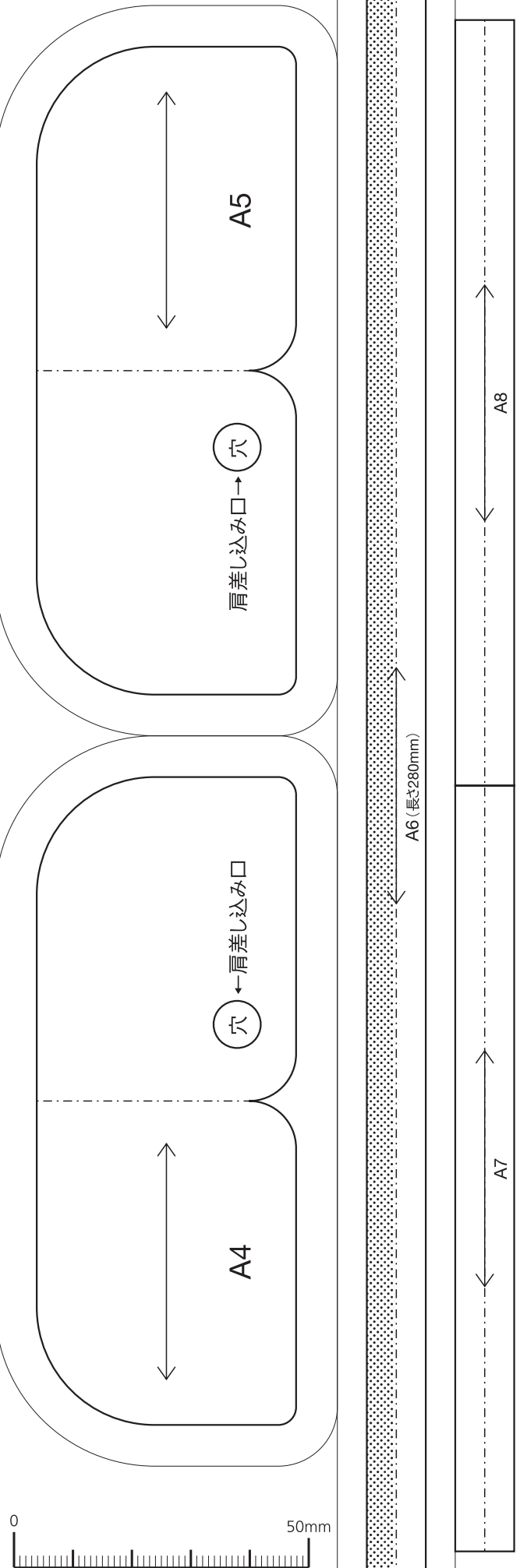
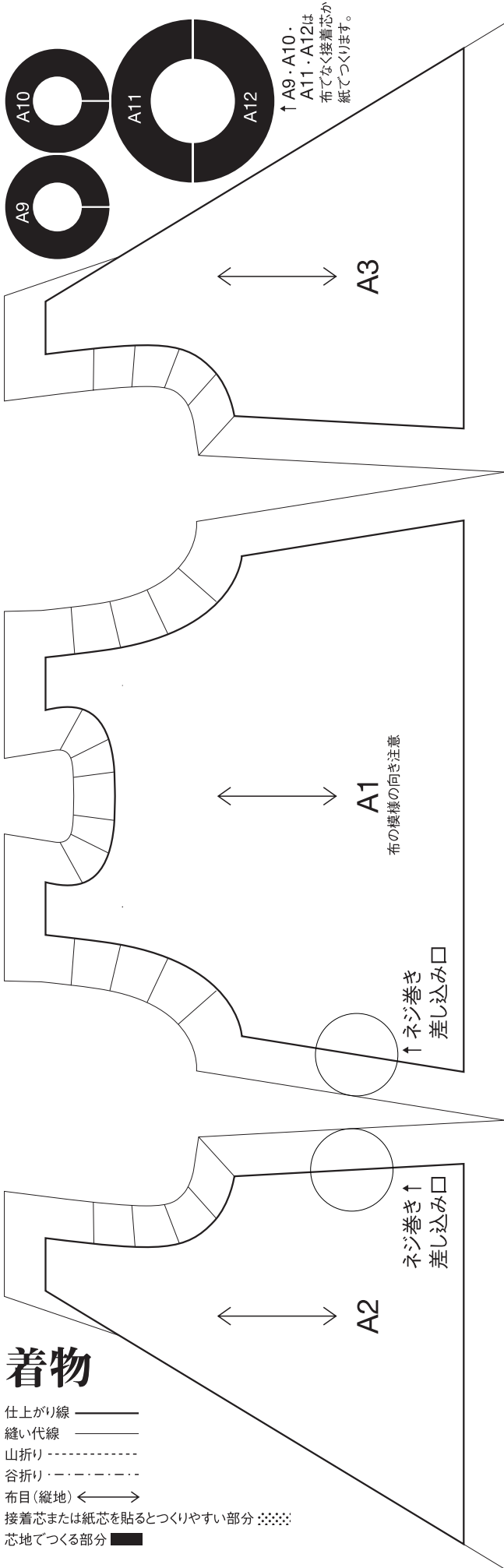


着物

- 仕上がり線
- 縫い代線
- 山折り
- 谷折り
- 布目(縦地)

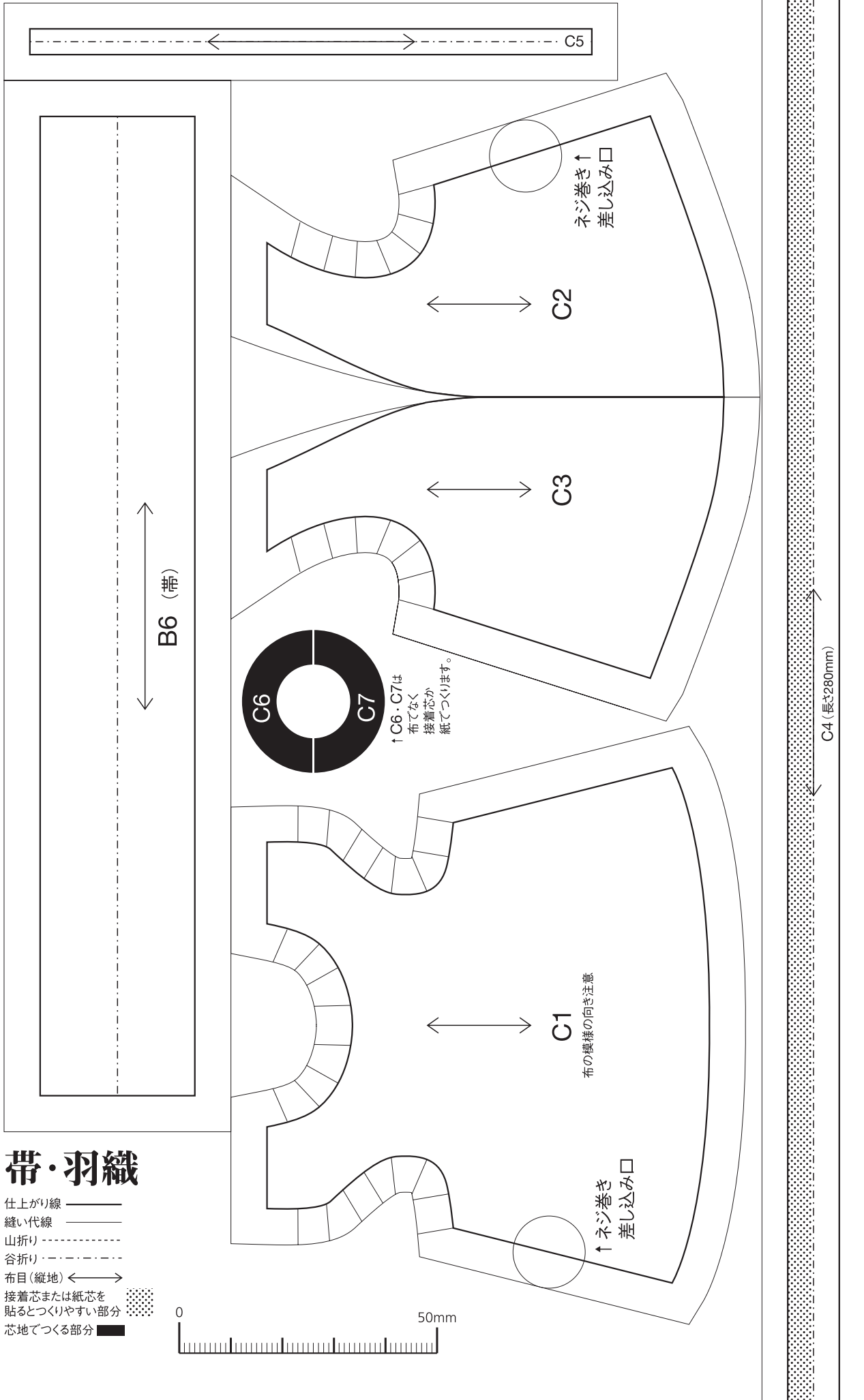
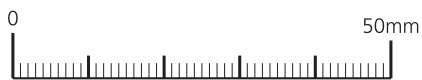
接着芯または紙芯を貼るとつくりやすい部分

芯地で作る部分



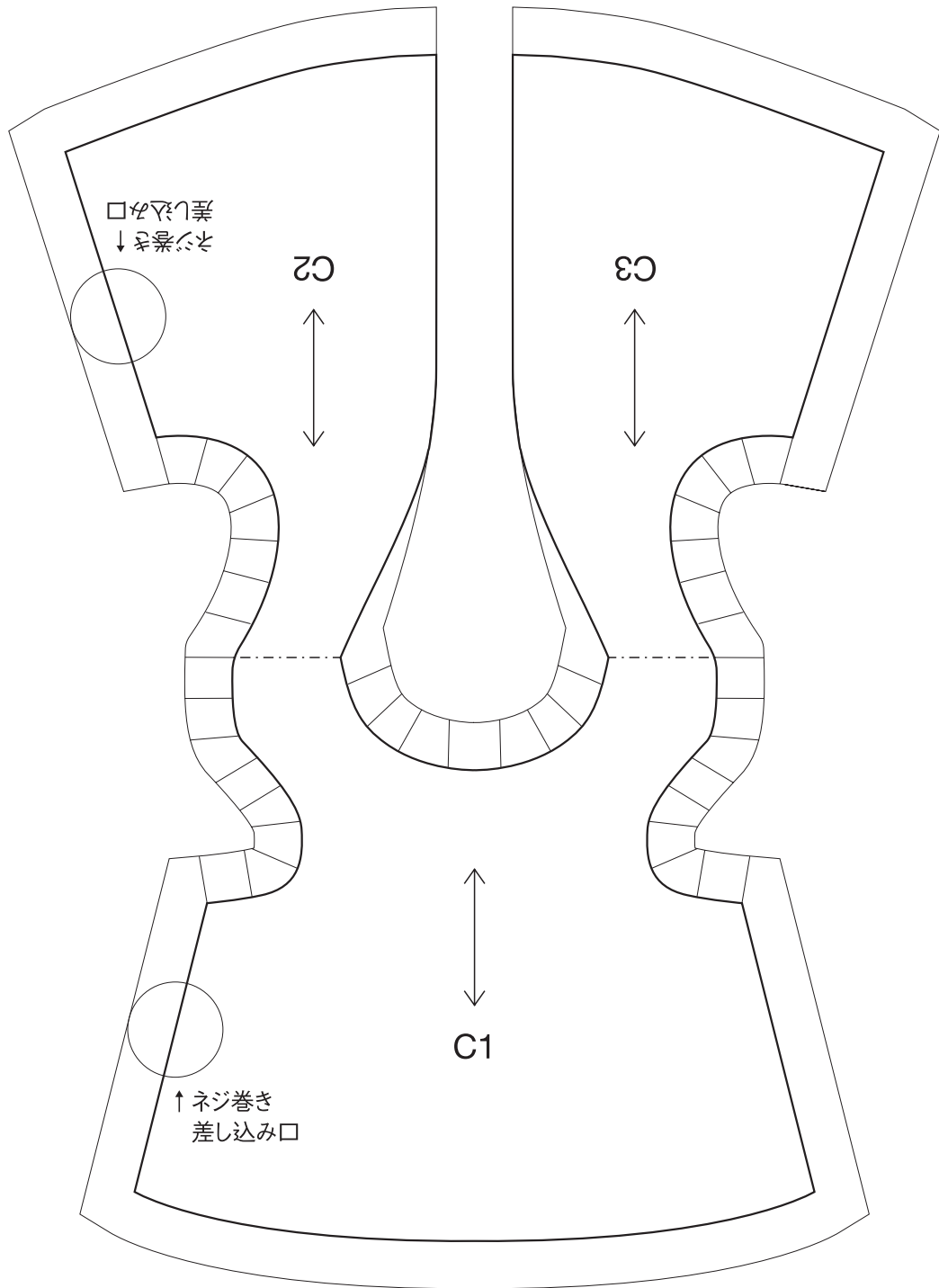
帯・羽織

- 仕上がり線
- 縫い代線
- 山折り
- 谷折り
- 布目(縦地)
- 接着芯または紙芯を貼るとつくりやすい部分
- 芯地で作る部分

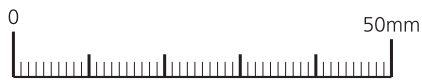


おまけの羽織

布が無地、または、模様の向きにこだわらなくてよい場合、C1・C2・C3を下の型紙にかえられます。



- 仕上がり線 ————
- 縫い代線 ————
- 山折り ······
- 谷折り ······
- 布目(縦地) ←——→





ミニ茶運び人形 布製着物の作り方

はじめに

基本的な作り方は
ふろくの紙製着物と同じです。

1. 大人の科学マガジン16号103ページからのふろくの着物の組み立て方をご参照ください。
2. 部品は木工用ボンドで貼り合わせ、必要な部分のみ縫います。作り方にはかいていませんが、裁縫に慣れた方は全部縫っていただいても大丈夫です。
3. この型紙は、ふろく用に作成されたものであり、本来の着物の型紙・作り方とは異なりますので、ご了承ください。

着物の着せ方も基本的に
ふろくの紙製着物と同じです。

首と腕は着せてから、最後に付けます。

用意する材料

布 *慣れない場合、厚みのない普通の木綿が作りやすい。
*型紙より多めに用意する。

糸 *布の厚さに適した太さのもの。普通の木綿で#60。

接着芯か、画用紙くらいの厚さの紙
*なくてもよいが、芯を入れると作りやすくなる。

マジックテープ、またはホック1個
*帯を着物に貼り付けない場合の固定用。
*マジックテープは大きいものを切って使ってもよい。
使用サイズは10mm×15mm程度。

リボン *帯をリボンで作る場合。

細い紐 *羽織・袴の飾り紐を他の紐にする場合。

用意する道具

チャコ・チャコペンシル・チャコペーパーなど
*布に印を付けるもの。

ものさし

紙切りバサミ(紙用)・裁断バサミ(布用)

木工用ボンド *速乾タイプがおすすめ。

つまようじ

アイロン・アイロン台

縫い針・まち針

ミシン *使用する場合のみ。手縫いでもよい。

布に型紙をうつす

1 型紙をプリントアウトする

型紙のpdfデータを2部プリントアウトする。

- *1部は切り取り用、もう1部は縫い代の参照用になる。
- *チャコペーパーで縫い代ごと転写する場合は1部でよい。
- *1ページの大きさはA4。
- *型紙は原寸大。プリントアウトの倍率を間違えていないか、プリントアウトした型紙に付いている目盛りで大きさを確認する。

2 型紙を切る

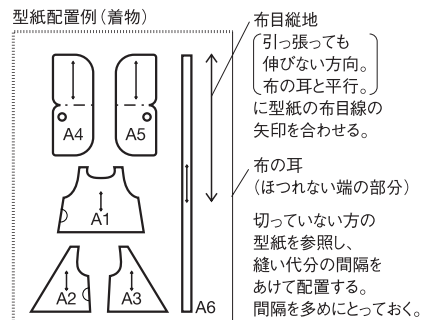
1部の型紙を
仕上がり線(——)で切り分ける。



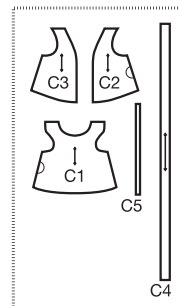
*チャコペーパーで縫い代ごと転写する場合は
縫い代線で切り分ける。

3 型紙を布の裏に配置する

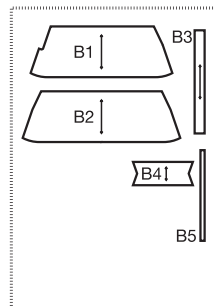
型紙を布目線にそって置き、まち針で留める。
布に、しわがある場合はアイロンをかけてから。



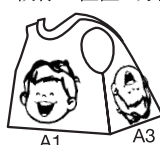
型紙配置例(羽織)



型紙配置例(袴)



布に模様があるときは、
模様の位置と方向に注意する。



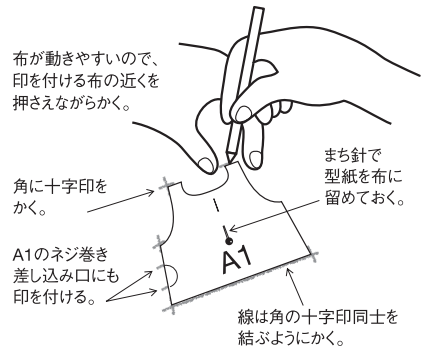
前と後ろで
模様が逆さに
ならないように。



大きい模様は
肩やすそにくるようにすると
きれいに見える。

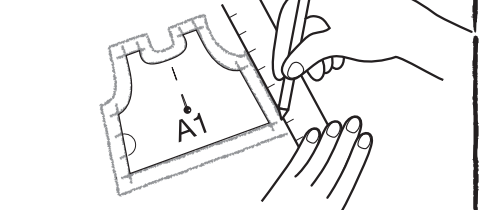
4 布に印を付ける

チャコやチャコペンシルなどで、布の裏に、
型紙の線にそった印をかいていく。



5 縫い代の印を付ける

切っていない方の型紙を参照し、
縫い代を布にかき足す。

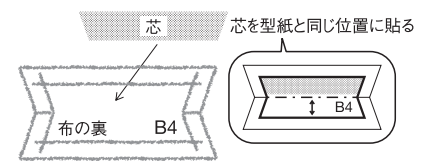


あとで切り揃えるので、だいたい構わない。
慣れない場合は幅を多めにとっておく。

6 芯地を切って貼る

型紙の※※※部分に芯があると
作りやすくなる。

接着芯か、画用紙くらいの厚さの紙に型紙をあて、
※※※部分をかきうつして切り取り、布裏に貼る。
接着芯の場合は、アイロンで圧着させる。



7 芯地で補強部品を作る

型紙の■部分は、腕を付ける肩の穴と
ネジ巻き差し込み口の補強部品になる。
接着芯か、画用紙くらいの厚さの紙に型紙をあて、
■部分をかきうつして切り取る。

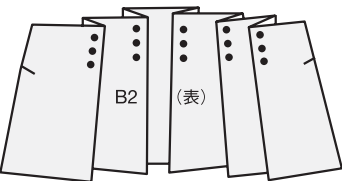
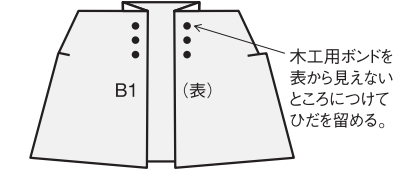
8 縫い代線にそって布を裁つ

まだ、型紙は、はずさない。
部品がわからなくなるので、それぞれ組み立て時にはずす。

袴を作る

1 ひだを固定する

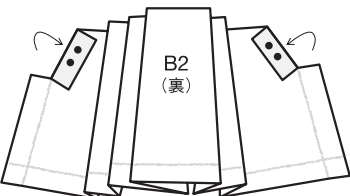
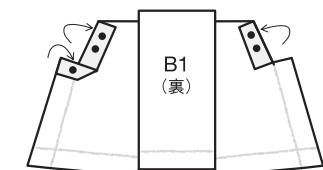
1. B1・B2のひだをそれぞれ型紙どおりに折る。
2. アイロンをかけて、折りくせをつける。
3. 腰から20mmくらいまでの、ひだの重なる部分を木工用ボンドで留める。



*木工用ボンドは、つまようじで少量ずつつける。多量にすると布にしみるので注意。

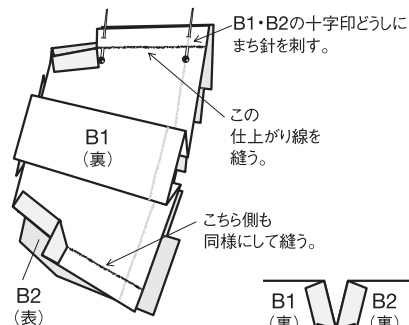
2 脇を貼り付ける

B1・B2の左右上部分を、それぞれ折り、貼り付ける。袴の脇の開き部分になる。



3 前と後ろを縫い合わせる

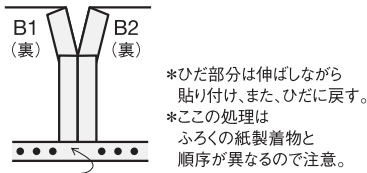
1. B1・B2の布の表同士を内側にして、重ねる。
2. 角の十字印どうし、仕上がり線どうしの位置を合わせ、まち針で留める。
3. 仕上がり線にそって縫う。



4. 縫い代を割る。アイロンをかけるか、木工用ボンドで貼り付ける。両脇とも同様にする。

4 すそを貼り付ける

1. すその縫い代を切りそろえる。
2. すそを折り返して貼り付ける。



5 ひっくりかえす

布の表が外側になるように、ひっくりかえす。

6 腰紐を貼り付ける

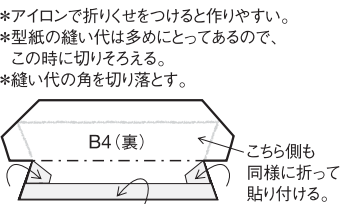
1. B3の縫い代を折って貼り付ける。
*アイロンで折りくせをつけると作りやすい。
*型紙の縫い代は多めにとってあるので、この時に切りそろえる。



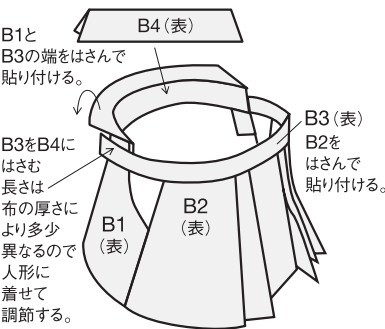
2. B3を半分に折り、ふろくの紙製着物と同じように、B2をはさんで貼り付ける。



3. B4の縫い代も折って貼り付ける。

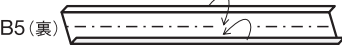


3. B4を半分に折り、ふろくの紙製着物と同じように、B1をはさんで貼り付ける。



7 前紐の飾りをつける

1. B5の縫い代を折って貼り付ける。
*アイロンで折りくせをつけると作りやすい。
*型紙の縫い代は多めにとってあるので、この時に切りそろえる。



2. 半分に折り、貼り合わせる。



3. 結んで適当な長さに切る。

4. つまようじで端を内側に折り込み貼り付ける。

5. 袴の前に貼り付けるか、糸で縫い留める。

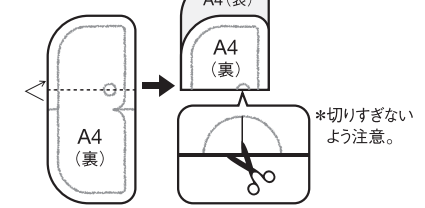
8 袴完成

袖を作る

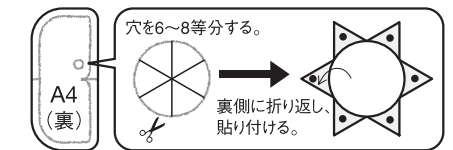
A4・A5を同様に作る。

1 肩の穴をあける

1. 肩穴の印の真ん中から布を二つに折り切れ目を入れる。



2. 布を開いて、切れ目にハサミを差し込み、放射状に切れ目を入れる。
3. 切れ目を布の裏側に折り返し、貼り付ける。



2 肩の穴を補強する

型紙の■部分、A9・A10を接着芯か、画用紙くらいの厚さの紙に書き写し切り取る。

1. 上から切れ目を覆うように貼り付ける。接着芯の場合は、アイロンで圧着させる。

3 袖を袋状に縫い合わせる

1. 布の表同士を内側にして、二つ折りにする。
2. 角の印同士をまち針で留めて、位置を合わせる。
3. 仕上がり線にそって縫う。
4. 縫い代を切りそろえる。



4 ひっくりかえす

布の表が外側にくるようにする。角の部分はつまようじで引っ張り出し形を整える。

5 手の出口(袖口)を貼り付ける

1. 手の出口(袖口)を、布の内側に折りこみ貼り付ける。
縫ったところと同じ線になるように。

6 アイロンをかける

袖の形を整え、上からアイロンをかけるとおよぶよせず、きれいになる。

7 袖完成

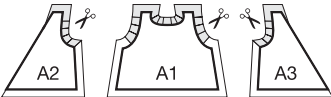
着物の身頃と羽織の身頃を作る

着物の身頃と、羽織の身頃の作り方は、同じ。羽織のおまけ型紙を使う場合は**2**の行程をとばす。

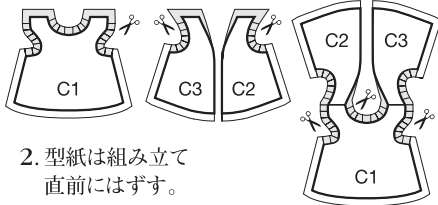
1 縫い代に切れ目を入れる

1. 型紙を布につけたまま、A1・A2・A3、C1・C2・C3の襟・袖ぐり部分に切れ目を入れる。
*型紙の縫い代に線の入っている部分。

着物の身頃



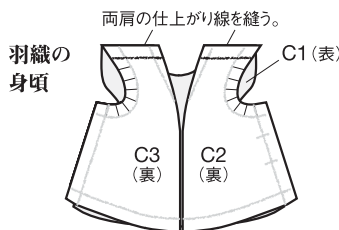
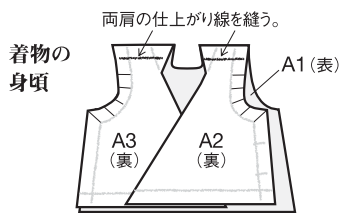
羽織の身頃



2. 型紙は組み立て直前にはずす。

2 肩を縫い合わせる

1. 着物はA1・A2・A3、羽織はC1・C2・C3の布の表同士を内側にして、重ねる。
2. 角の印同士をまち針で留めて、位置を合わせる。
3. 肩を仕上がり線にそって縫い合わせる。
4. 縫い代を切りそろえる。
5. 縫い代を割る。アイロンをかけるか、木工用ボンドで貼り付ける。

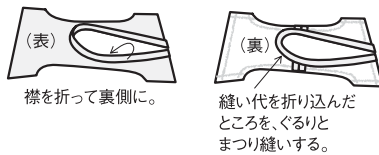


3 襟を貼り付ける

1. 襟の部品、着物はA6、羽織はC4の縫い代を木工用ボンドで貼り付ける。
着物はA6(裏) 羽織はC4(裏)
2. それぞれを半分に折って貼り合わせる。
3. 身頃への付け方は、ふろくの紙製着物と同じ。
*表から見える襟の幅が左右対称になるよう注意。

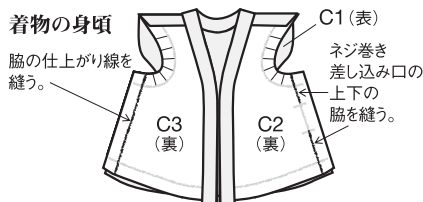
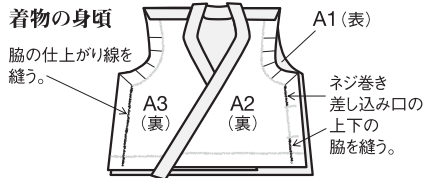
3* 襟を縫いつける場合

1. 襟の部品、着物はA6、羽織はC4と**2**の身頃を布の表同士を内側にして、重ねる。
2. 襟の縫い代を身頃の襟ぐりの縫い代に合わせまち針で留めて、縫う。A3(表)又はC3(表) この仕上がり線をぐるりと縫う。
A6(裏)又はC4(裏) A2(表)又はC2(表)
3. 襟の縫っていないほうの縫い代を谷折り、更に真ん中の谷折り線から二つに折り、襟を裏側にまわす。裏側は、まつり縫いする。



4 前と後ろを縫い合わせる

1. 布の表同士を内側にして、重ねる。
2. 角の印同士をまち針で留めて、位置を合わせる。
3. 両脇を仕上がり線にそって縫い合わせる。
*ネジ巻き差し込み口は、縫わない。
4. 縫い代を割る。アイロンをかけるか、木工用ボンドで貼り付ける。



5 すそを貼り付ける

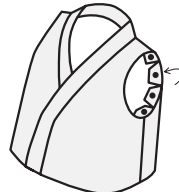
1. すその縫い代を切りそろえる。
2. すそを折り返して貼り付ける。
*袴のすその処理と同様。

6 ひっくりかえす

布の表が外側になるようにする。

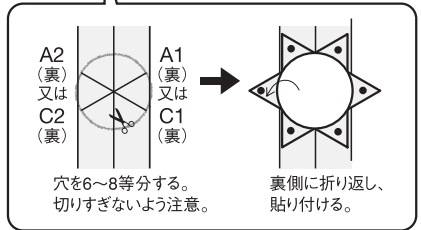
7 袖ぐりを貼り付ける

1. 袖ぐりの縫い代を内側に折って貼り付ける。
*左右対称になるよう注意。



8 ネジ巻き差し込み口を作る

1. **4**で縫わなかった部分からハサミを差し込み、放射状に切れ目をいれる。
2. 切れ目を布の裏側に折り返し、貼り付ける。



9 ネジ巻き差し込み口を補強する

型紙の■部分、A11・A12、C6・C7を接着芯か、画用紙くらいの厚さの紙にかき写し切り取る。ネジ巻き差し込み口の上から切れ目を覆うように貼り付ける。接着芯の場合は、アイロンで圧着させる。
*「袖をつくる」の**2**の図も参照のこと。

10 着物の身頃と羽織の身頃完成

羽織の前紐を付ける

細い紐などを使ってもよい。

1 紐を貼り合わせる

1. C5の縫い代を折って貼り付ける。
*アイロンで折り返しをつけるとやりやすい。
*型紙の縫い代は多めにとってあるので、この時に切りそろえる。



2. C5を半分に折って貼り合わせる。

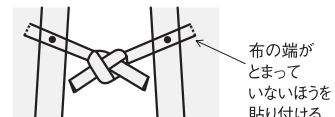


3. 乾いたら2つに切る。



2 紐を結んで羽織に付ける

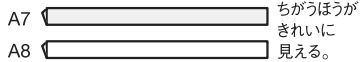
1. 紐を結ぶ。
2. 羽織を人形に着せ、盆を持たせる。
3. 紐が盆があたらない位置を確認してから紐の端を羽織の裏に貼り付ける。



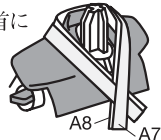
着物の 飾り襟を付ける

1 布を貼り合わせる

1. A7・A8をそれぞれ2つに折り、
貼り合わせる。



2. A7・A8を人形の首に
巻き、首を曲げても
あたらな位置で
貼り合わせる。
左を上にする。



A7・A8は少しずらして重ねる。

2 着物に貼り付ける

着物の襟の内側に1を貼り付ける。

帯を作る

リボンなどで作ってもよい。

1 布の長さの確認

1. B6を図のように折る。
*まだ貼り合わせない。

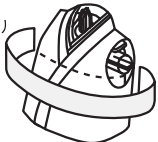


2. B6を半分に折る。
*まだ貼り合わせない。



3. 着物を人形に着せた
状態で巻いてみる。
*使用する布の厚さにより
長さが変わるので、
ここで確認する。

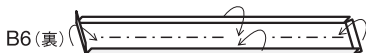
腕の軸の真下くらいに
帯を巻く。



4. 重なりが25mm
程度の長さで切る。

2 布を貼り合わせる

1. B6を折って貼り合わせる。
リボンは両端のみ折って貼り合わせる。



2. B6は半分に折って貼り合わせる。



3 帯が留まるようにする

重なる部分にマジックテープを貼るか、
ホックを付ける。

着物を着せる

着せ方は基本的に
ふろくの紙製着物と同じです。



おつかれさまでした。